

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）事後評価調書

都道府県名	福井県	事業実施主体	福井県、鯖江市	地域再生計画名	若者が住みたくなる・住み続けたくなるまち鯖江の再生計画
計画期間	平成28年度～令和3年度	評価責任者	鯖江市都市整備部長		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標	基準値		中間目標値			最終目標値		事後評価	達成状況		最終目標値の実現状況に関する評価		
		基準年度		年度	中間実績	基準年度	最終実績	指標総数		達成数				
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標 1	生産年齢人口の減少抑制	39,349人	H27	38,800人	H30	39,803人	38,442人	R3	39,520人	○	0	1	本事業により、地域内の車両通行が困難なボトルネック等の解消は順調に整備され、地域内道路の移動ネットワークの強化や安全安心の通行が住みやすさの向上に繋がり、定住促進などに寄与されたことから生産年齢人口の減少抑制に貢献しているものと考えられる。
	指標 2	年間観光客入込数の増加	164.8万人	H26	167万人	H30	189万人	170万人	R3	120万人	×	3	1	本事業により、訪問者の四季を通じての安全安心な道路交通環境が改善され、年間観光客入込数の増加に貢献しているものと考えられる。しかし、最終目標値より実績値が50万人少なく、目標を達成していない。原因としては、新型コロナウイルスの影響が大きいと考えられる。
	指標 3	コミュニティバス年間利用者数の増加	18.8万人	H26	19.4万人	H30	14.4万人	20.0万人	R3	10.6万人	×			本事業により、四季を通じて安全安心な道路交通環境が改善され、コミュニティバス年間利用者数の増加に貢献しているものと考えられる。しかし、最終目標値が9.4万人少なく、目標を達成していない。原因としては、平成29年度にダイヤ改正を行い一時的に利用者が離れたことや新型コロナウイルスの影響が大きいと考えられる。
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標 1													
③事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価								
			計画	中間年度(H30)	最終実績									
特別措置を適用して行う事業	市道整備事業（整備延長）	21,800m	7,951m	17,825m	一部路線は他事業に移行したものの、本事業の計画路線の整備は順調に整備され、地域内道路の移動ネットワークの強化や安全安心の通行が住みやすさの向上に繋がり、生産年齢人口の減少抑制や年間観光客入込数の増加、コミュニティバス年間利用者数の増加に貢献している。									
	林道整備事業（整備延長）	3,300m	989m	1,639m	計画の路線延長には届かなかったものの、大型機械や一般車両の通行範囲が拡大され、漆器の原材料である漆や木材の効率的で安全な供給が図られ、年間観光客入込数の増加に貢献している。									
その他の事業														
計画外で独自に実施した事業	社会資本整備総合交付金事業	道路および橋梁等の改築・補修・点検を行い安全で安心な道路整備を実施			計画的に事業を進めており、令和元年度に完了。交通安全や生活環境が向上し、誰もが安全で安心して暮らせる地域づくりを図ることができた。引き続き事業を実施し、更なる安全で安心して暮らせる地域づくりに向けた取り組みを強化したい。									
	都市再生整備計画事業	子育て支援センターや公共施設耐震化および公園等の整備を行い都市再生まちづくりの推進を図る			計画的に事業が進み、平成28年度に完了。「暮らしやすい」環境の充実を図るため、認定こども園の園舎建設または公共施設の耐震化や都市公園の整備等の都市再生を効率的に推進する整備を実施し、交流人口増加を図ることができた。									
	交差点100箇所改良事業	交差点の危険箇所を改良し安全かつ快適で安心できる道路整備を実施			計画的に事業が進み、平成28年度に完了。安心して通行できる交通事故の少ない道づくり・まちづくりを図ることができた。									
	森林環境保全整備事業	効率的な作業体系の確立に向けた森林施業の集約化や路網整備の推進を図る			計画的に事業が進み、令和3年度に完了。木材を安定的に出荷できるよう間伐作業をはじめとする森林施業への支援を図ることができた。									
	コミュニティバス運行事業	高齢者・障害者にも優しい公共交通運行システムであるコミュニティバスの運行を図る			「訪れやすい」「暮らしやすい」環境の充実や北陸新幹線敦賀開業で幹線交通網が大きく変化を迎えることから、幹線交通網と二次交通網のネットワーク化の推進を図っている。今後も鯖江市にとって最適な公共交通の実現を図っていくことに期待できる。									
	鯖江市役所JK課プロジェクト事業	女子高生がまちづくりチームを結成し地域活動等を企画し行政参画の推進を図る			市政に関して「無関心層」と言われてきた女子高生によるまちづくりチーム「鯖江市役所JK課」を結成し、自ら企画した地域活動の実践を通じて、若者・女性が進んで行政参画を図っていく新たなモデル都市を目指しており、マスコミに取り上げられるなどPR効果があり、交流人口の増加につながったと考えている。引き続き事業を継続し、更なる交流人口の増加に取り組みを実施していきたい。									
	学生との連携・協働事業	学生が主体となり地域活性化や観光振興などまちづくりの提案を議論し市の施策の推進を図る			「鯖江市地域活性化プランコンテスト」「明治大学鯖江ブランド創生プロジェクト」「河和田アートキャンプ」等により学生が主体となり地域活性化や観光振興など、若者の柔軟で独創性豊かな提案を市の施策に反映することにより、若者が活躍しやすい、まちづくりにつながっていると考えている。引き続き事業を継続し、新たなまちづくりの提案に期待される。									
④評価方法	地域再生計画の記載した数値目標に関係する部署および有識者により、最終の実現状況に関する評価を行った。													
⑤事後評価の公表方法	鯖江市のホームページに掲載													
⑥計画全体の総合評価	本地域再生計画では、道整備交付金を活用した市道と林道が一体となった道路ネットワークを拡充することで、生産年齢人口の減少抑制や年間観光客入込数の増加、コミュニティバス年間利用者数の増加に貢献したと考えられる。しかし、新型コロナウイルスによる行事の中止や施設利用の制限により、年間観光客入込数やコミュニティバス年間利用者数の増加の目標が達成できなかったと考えられ、世界的な問題であることから、回復には時間を要するものとする。													
⑦今後の方針等	本地域再生計画における基盤整備は、おおむね達成できており、今後も市道と林道の整備を行っていくことで、さらに向上が見込まれる。年間観光客入込数やコミュニティバス年間利用者数の増加については、新型コロナウイルスの影響として回復に時間を要すると考えるが、ソフトやハード両面での取り組みを検討し、早期回復に努めるよう整備や対策を行っていくことが必要と考える。													